

「仙台版防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>中学校 2019年版 教科・領域名 道徳</p>	<p>単元名 仙台平野 災害の歴史を学ぼう P30～31 時間 50分</p>
<p>主な学習活動（実際に行った活動）</p>	<p>指導の実際</p>
<p>【ねらい】内容項目D-(19) 生命の尊さ かけがえのない自他の生命を尊重する。また社会に尽くした先人に尊敬と感謝の念を深め、郷土を愛し、発展に努める。</p> <p>1 P30～31を読み、仙台平野を繰り返し襲ってきた地震や津波について学ぶ。 ・巨大津波が繰り返し起きていることを知る。</p> <p>2 P62「仙台の自然災害年表」を見て、地震だけでなく、水害の被害も多かったことに気づく。</p> <p>3 「稲むらの火」の紙芝居を見て、江戸時代に津波の被害にあった人達の様子を知る。</p> <p>4 儀兵衛のなみだは、どんな思いからくるなみだだったのだろう。 ・うれしなみだ：村の人の命を津波から守れたから。 ・達成感のなみだ：村人全員の命を守ることができたから。 ・悔しなみだ：全て津波にもっていかれたから。 ・不安のなみだ：助かってうれしいけれど何もかも失われてしまったから。 ・後悔のなみだ：全ての稲を燃やして良かったのか</p> <p>5 11月5日は「世界津波の日」であることを学ぶ。また、日本では東日本大震災が起きた平成23年には「津波防災の日」とも定めたことを知る。</p> <p>6 「世界津波の日」「津波防災の日」に込められた先人の思いを考える。 ・津波の恐ろしさを後世に伝えたいという思い。 ・世界の津波の被害が少ない国にも津波の恐ろしさを伝承したい。 ・津波から自分の命を守るだけではなく、周りの人にも手を差し伸べて、みんなで命を守ってほしいという思い。</p>	<p>【準備物】防災副読本、仙台市津波避難エリアマップ、「稲むらの火」大型紙芝居、ワークシート</p>  <p>○1854年江戸時代末期に起きた「安政南海地震」の時に実業家浜口梧陵のとった行動についての逸話を読み聞かせることで防災について考えさせる。</p>  <p>○最終場面の儀兵衛の「うれしなみだ」をあえて「なみだ」と読み、「なみだ」に込められた思いを考えさせることで、ねらいに迫る。</p> <p>○日本が津波に対する国際社会の意識を高め、世界の津波犠牲者を1人でも減らすことに貢献していることを紹介する。</p> 